

第 21 回 防災カフェを開催しました。



命を守る“防災リテラシー”を高めるには』

ゲスト：川見 文紀 氏 ・ 奥村 知世 氏

(同志社大学 社会学部 社会学科)

日時：2018年2月16日(金) 18:30~20:30

場所：滋賀県危機管理センター1階 エントランスホール

ファシリテータ：立木 茂雄 氏

(同志社大学 社会学部 社会学科 教授)

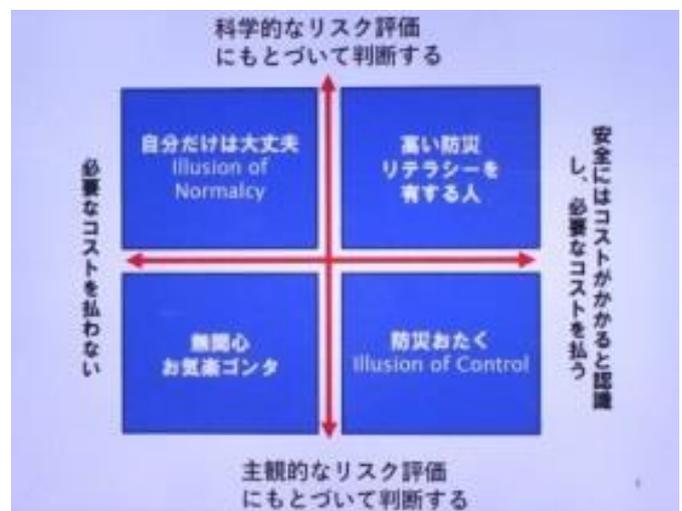
2016年の熊本地震で被災した老人ホームの人達が、危険を感じて一旦は別の場所に避難したのに、諸事情から翌日には明らかに危険な元の建物に戻るということがありました。このことは、地震が起きると危険だとわかっているのに、住宅の耐震化や家具の固定などの防災対策がなかなか進まないことには共通点があります。災害の危険性などの知識を実際に防災の備えや行動につなげる『防災リテラシー』のお話を聴き、それを高めることについて一緒に考えました。



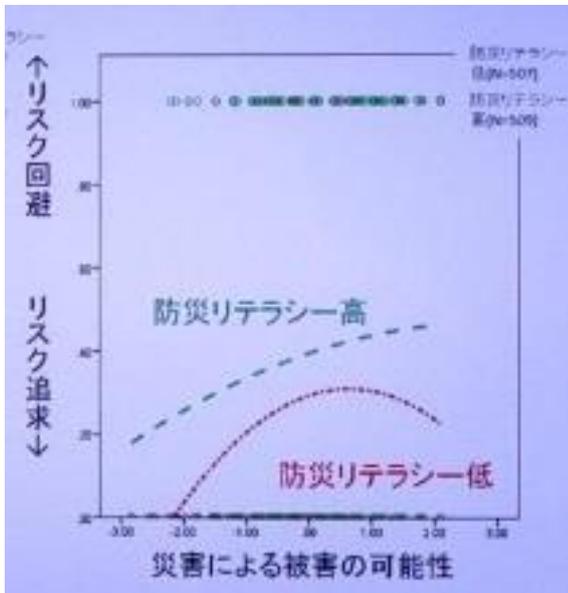
ファシリテータ：立木茂雄さん

ゲスト：奥村知世さん、川見文紀さん

防災への取り組みの姿勢を、右の図のように上下に危険を科学的に評価するかしないか、左右にコストをかけて危険を回避するかしないかをとって考えた場合、危険を主観的に捉えてしかも対策をしない、図の左下に位置する人たちが問題で、その人たちに危険であることを伝えれば、コストを払って危険を回避するようになると、これまで考えられてきましたが、人間には危険



だとわかっているにもかかわらず、コストをかけて危険を回避するよりも、ひょっとしたら何も起きずに済むかもしれないと期待する（賭けをする）感覚があって、これが熊本地震での老人ホームの話や家庭での防災対策がなかなか進まないことにつながっているということでした。



阪神・淡路大震災の後に、兵庫県で行われた約1000人への調査で、地震への危険の理解度とそれへの備えや咄嗟の行動といった対策をする程度との関係を調べると、左の図のように震災を経験した人たち（---）は、危険の理解が進むほど、対策をする程度が高く「リスク回避をする」なりますが、経験していない人たち（.....）は、危険への理解が一定を超えると対策に消極的になる傾向が見られました。これは何も起きずに済むかもしれないと期待する（賭けをする）感覚「リスク追求をする」が働いたためだと考えられるということでした。

震災を経験した人たちは災害を理解し、備え、行動して危険を回避する力である『防災リテラシー』が高いということになります。このように『防災リテラシー』が高い人が、正しい災害の情報を受け取った時にしっかりと対策するようになるので、▲▲地震が起きる確率が〇〇%であるという情報も必要だけれど、災害を経験しなくても『防災リテラシー』が高まるようにすることが大切だということでした。

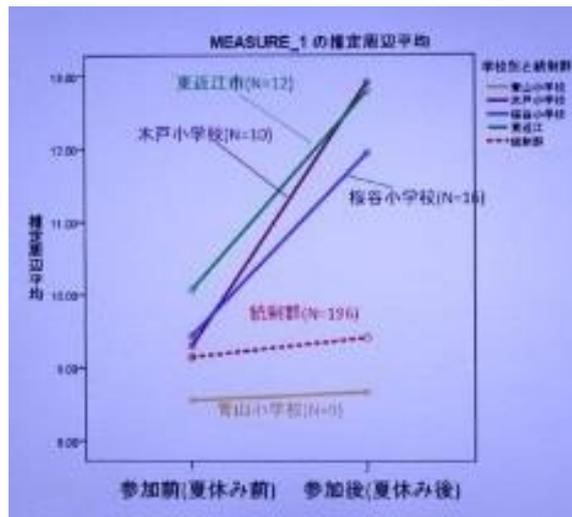
第9回『防災カフェ』で、2016年度に行われた防災キャンプによって『防災リテラシー』が概ね高まったという発表がありました。防災キャンプは、従来からの通学合宿に防災学習を加味したもので、滋賀県では2013年からこれまで10の地域で開催されています。狙いは①災害が起きたときの対応についての学習、②学校や地域の公民館などを避難所としての被災地体験、③子どもや保護者地域住民への被災時の自助共助についての防災学習、④子どもの体験活動を支える地域の大人同士のつながりを強め、

重近江市（蒲生地区）防災キャンプ内容			
日時	プログラム内容	日時	プログラム内容
8/5（土）		8/6（日）	
13:00～	受付・事前アンケート調査		
13:30～	オリエンテーション・交流活動		
14:00～	開会式・防災講演		
15:00～	音楽隊防災講話		
15:30～	防災体験 （煙体験・消火器体験・車いす 歩き出し体験）		
16:00～	救命・応急処置講習 （AED・止血・手当）		
16:30～	避難所設置体験・まとめ		
21:00～	北火体験		
21:30～	炊飯準備		
22:00～	就寝		



子どもの体験活動を支える地域の大人同士のつながりを強め、

地域の防災力減災力を高める です。2017 年度は 8 月に小学生 5 名と中学生 9 名が参加して東近江市蒲生コミュニティーセンターで行われました。キャンプの前後で災害の知識・備え・行動のいずれの項目でもプラスの変化が見られ、参加しなかった約 230 名の子どもたちと比較すると『防災リテラシー』が明らかに向上したことがわかったそうです。その中で、段ボールを使ってパーティションを作る避難所設営体験があったのですが、子どもたちとキャンプをした奥村さんにとって印象的だったのは、最後の交流会で体験の時は楽しそうにしていた子どもたちから「ここで長期間過ごすのはとても大変だと思った」という正直な意見が出たことだったそうです。



参加者からは多くの質問がありました。その一つを紹介します。

問：大人の『防災リテラシー』を高めるのはどうしたらいいですか？

答：防災だけを話題にしたものでなく、みんなが楽しいと思っている取り組みの中に防災の側面を取り入れていくようにします。これがうまくいっている地域には、次の 5 つの共通点があります。①住人だけでなくその地域に関わる多様な人たちを巻き込み、その人たちを繋ぐようにしている。それによってイザという時に、老人や病人など配慮すべき人に心配りができるようになります。②地域で行われているイベントの中に防災を入れ込んでいる ③役員が単年度で替わっても継続できるようにマニュアル化することや役員が役職を終えても引き続き防災に関わるようにしている ④住民に地域に興味や愛着を持ってもらえるような情報発信をしている ⑤大人も子どもも互いに挨拶がしっかりできるようになっている です。特に⑤の挨拶がしっかりできることは同時に防犯対策にもなります。また、もしもの時の避難生活では、地域の人達の支え合いが避難生活の苦労を軽くしてくれます。

立木さん、川見さん、奥村さん、参加者のみなさん、ありがとうございました。

※カフェプラスで演奏していただいた生徒の皆さん有難うございました。